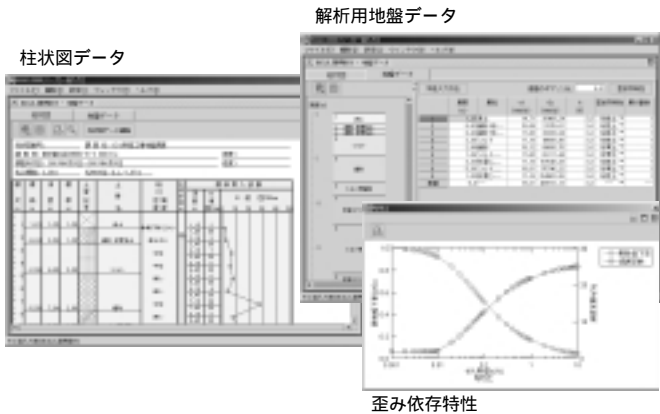


G_s の値は表層地盤の層厚、密度、S波速度、減衰定数及び歪み依存特性(土質材料の歪みに応じた剛性及び減衰の変化を示す特性)などにより計算されます。S波速度についてはPS検層等により得ることができませんが、ほとんどの建設地においてはそこまでのデータはなかなか手に入るものではありません。そこで多くの建設地で得られる地盤柱状図を活用し、それら地盤定数を推定します。地盤データの入力機能では柱状図データ(N値や土質名など)を入力することにより自動的にそれら定数を推定することができます。歪み依存特性については「建告第1457号 別表第一、第二」による粘性土と砂質土による特性を用いますが、建設地における試験データなどがあればそれを利用することもできます。

製品情報



限界耐力設計においては G_s の値により検証結果が大きく左右されます。今までの設計とは違い地盤の詳細な検討が要求され、またそれをうまく使いこなす事が設計の一つのキーポイントになるように思います。